

人口減少対策に対する委員提案一覧

資料 1

	施策・事業	詳細
	移住・定住に関するワンストップ窓口の設置	○子育て、在宅、福祉など全ての相談窓口となる移住コンシェルジュ・コーディネーターを業務委託のような形で設置する。 ○コトモかゆいに専任（パート可）の移住・定住コンシェルジュを設置する。 ○観光で来た方にも移住を促進しているイメージを持ってもらうため、観光エリアに窓口を設置するか、または情報発信の拠点を設置する。また、そこで実際に移住してきた方のお店などを紹介する。 ○ポータルサイトなどもセンターで運営し、情報発信の充実を図るとともに、対面での移住希望者との面談やアドバイス提供、定住促進室や地域の不動産会社と連携しながら不動産紹介なども含め、オールジャンルで移住・定住者のための窓口になる機能を持たせる。 ○（全国初？）開業・独立希望者向けワンストップ移住コーディネート／情報発信機能整備事業 ⇒別添 1 参照
1	移住・定住に関するポータルサイトの開設	○移住・定住に関する専門サイトを開設し、SEO対策をするなど、移住を考えている方に広く桐生を知ってもらう。 ○情報発信のターゲットを絞り、そのターゲットを同世代の人が発信する形がいい。 ○子育て世代は子どものために住む場所を考えるという意見が多かったので、子育て・教育に関して、子どもの成長段階に応じてどのような支援が受けられるのか、流れで分かるような発信の仕方ができるといい。また、子育ての前段階である不妊・不育症への支援などあれば同じく発信すべき。 ○キッズバレイでは、「おやここ」というポータルサイトを運営しており、情報を見ってくれる方が一定数いることが分かったので、子育て情報のみならず総合的な情報発信ができるとよい。特にイベント情報は、市民にとってもメリットになるような形での情報の集約ができると望ましい。掲載料がかかると100円でも断られることがあった。 ○（全国初？）開業・独立希望者向けワンストップ移住コーディネート／情報発信機能整備事業 ⇒別添 1 参照
2	きりゅう暮らし応援事業の利用促進	○利用したことのある人、また、事業を知っているけれど利用しなかった人（こちらの方が重要）の声を吸い上げ、もっと利用したい・利用してよかったという内容にブラッシュアップできるのではないかな。 ○旧市街地の空き家を上手く活用できる仕組みをつくり、補助金を受けやすくする。 ①空き家バンクの制度をもっと発信し、登録物件を増やす。 ②空き家をあらかじめリフォームしておき、住める状態で貸出又は販売する。 ・職人紹介カフェ「ぷらっと」のゼロ工事（空き物件のオーナーが貸家やテナントとして改装工事を依頼する場合、入居者が決定するまで工事費用の支払いが不要となる仕組み）。 ・ワークショップとして一般の方に参加してもらいながらリフォームを進める。 ③リフォームした空き家をお試し移住などに利用する。市街地の物件であれば車が無くても生活できるので気軽に来てもらいやすい。
3	まちなかにおける生活の核となる施設の整備	○まちなかにスーパーなどの生活の核となるような施設がないので、そこで生活が全て間に合うような街並みが必要である。スーパーやドラッグストアを誘致するにしても、人口が減少する前に手を打たないと手遅れになって出店自体が危うくなってしまう。買物の利便性が良くなれば、おのずと周辺人口は増える。
4	公共施設の利活用	○現在有する公共施設、公共用地などの使用していない、若しくは使用の少ない物件について、早期に賃貸又は売却を進めることにより、資金を生み出し、その資金を他の人口減少対策に充てて更なる事業を進めてほしい。

	施策・事業	詳細
5	3歳未満児の 保育料無償化 1人	○現在無償化の対象となっていない3歳未満の子どもの保育料を無償化する。
6	桐生を好きな 子どもを育て る取組の実施 1人	○学校で「桐生の好きなところ」や「桐生で初めて行った場所」などの作文や絵を描き、コンテストをするなど、まずは子どもたちに地元桐生を知ってもらい考える機会を設ける。さらに、子どもたちが思う桐生、もっとこうなったらいいという意見が出るといい。
7	小学校や学童 でのいじめ、 いじわるの解 消（特に学 童） 1人	○いじめやいじわるを解消するとともに、子どもたちが無理に行かないよう、また、子どもたちの興味が広がるようなコンテンツの提供など、環境整備を強化し、民間やNPO法人、外部リソースも活用して内部の職員の苦労も軽減するような形で、子どもたちがのびのびと、いきいきと放課後を過ごせる地域として全国から注目を集めるような活動にして、外に対しての魅力発信を強めてほしい。